



さいとう たかし
齋藤 崇志 JV

派遣期間：
2018/10/23～2020/10/22
任地：西ニューブリテン州キンベ
配属先：キンベ州立（総合）病院
職種：理学療法士
出身：東京都

パプアニューギニア事務所
広報
JICA海外協力隊
「人」明日へのスト〜リ〜



PNG
の
リ
ハ
ビ
リ
テ
ー
シ
ョ
ン
の
現
状

〜データから見る〜



職場での活動風景

プロフィール(応募動機含む)

私は理学療法士として約15年にわたり日本で仕事をしてまいりました。ただ、子供のころからこのJICA海外協力隊へ参加することは私の希望の1つでした。そこで、30代後半と遅咲きながら、このJICA海外協力隊への参加を決めました。

1. 配属先での活動概要

私の配属先は西ニューブリテン州の州立病院でした。ここの理学療法室に配属され、入院・外来患者へのリハビリテーション（理学療法）を行いました。また、現地の理学療法士と一緒に臨床研究を行いました。



配属先のキンベ州立病院



配属先の理学療法室



私の同僚

2. 任地での生活

私は配属先の病院から徒歩で15分ほどの場所に位置する家に住んでいました。大家さんがとてもいい方で、様々なサポートをしてくれました。大家さん家族と共に週末に教会のミサへ参加したことはいい思い出の1つです。



同じ任地の隊員と同居して住んでいたキッチンと寝室



キンベの人々との交流

PNGの人々は懐が広く、JICA海外協力隊の私たちを温かく受け入れてくれました。印象に残っているのは、2019年の独立記念日です。PNGには、800を超える部族が存在しており、独立記念日には国中で祭りが開催され、そこでは様々な部族の伝統舞踊が見られます。



村の子供達



祝日のお祭りに参加

～日常の協力活動の一コマ（第4号報告書から）～

ボランティア活動の一環として、肥満に関する啓発活動&調査を行いました。具体的には、キンベの中心地にあるバスターミナルにて、町の人々を対象に、身長・体重を測定しました。同時に、身長・体重の測定機会と測定機械の有無についてアンケート調査を行いました。キンベの人々は、自分の身長・体重を定期的に測定する習慣が無く、自分の身長・体重を正確に把握していないことが明らかになりました。

この調査に参加した人々に対して、「身長・体重を定期的に測定すること」、「正確な測定値を理解しておくこと」の重要性を説明しました。この単発の活動のみで、キンベの人々の意識や習慣を変えることは難しいと思われるので、継続的な啓発活動が不可欠であると思われました。

3. 配属先の課題と要望（ニーズ）

課題：現状把握のためのデータがない

ニーズ：パプアの理学療法の発展

パプアニューギニア (PNG) は、母子保健の問題、感染症、交通事故、生活習慣病など、様々な健康問題を抱えています。そのため、PNGの理学療法士は、様々な疾患を抱える人々に理学療法サービスを提供しています。

しかし、PNGの理学療法士が、実際にどのような患者にサービスを行っているのか、詳細な統計データが存在しません。このような統計情報は、PNGの理学療法の現状を把握し、将来のPNG理学療法の発展・改善を目指すうえで不可欠な物です。



骨折した子供



呼吸器障害を有す患者

4. 配属先での課題解決に向けての取組

私は、上記の問題を解決するため、現地の理学療法士と共に、臨床研究を行いました。具体的には、過去2年間に私の配属先で理学療法サービスを受けた患者約350名のデータを整理・集計しました。そして、理学療法サービスを受けている患者の特性（性別、年齢層、疾患等）を明らかにしました。

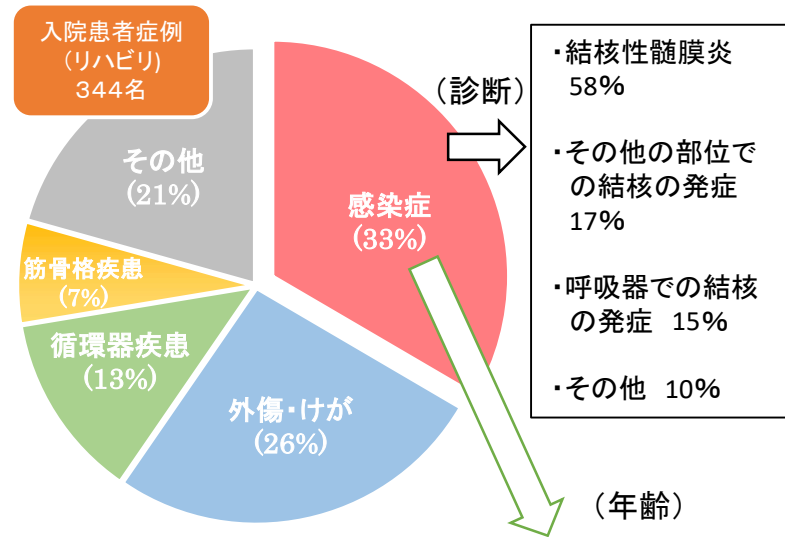
その結果、理学療法サービスを受けている患者は、感染症疾患（主に結核関連疾患）や整形外科疾患（外傷、骨折等）を抱えていることが多いことが分かりました。この結果は、PNGの理学療法が発展するために、これらの疾患に対する理学療法の教育や国際支援が必要なることを示唆しています。この研究成果を、私はPNGの医学会に発表し、また、PNG医学誌に医学論文を掲載していただく機会を得ました。

5. 活動を通じて学んだこと、今後の抱負（将来の目標）

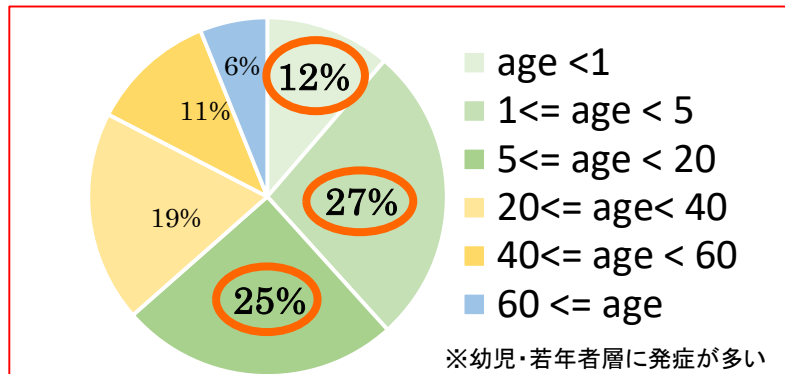
PNGでの日々の中で私が学んだ最も重要な事は、「日本以外の価値観、考え方」があることを理解したことです。当然のことながら、日本で長く暮らしていると、知らず知らずの内に、自分の意見や物の見方・捉え方が、日本（人）の価値観や社会規範に準ずるようになります。いわば、「日本仕様」になります。これは、日本社会での生活を円滑にするメリットがあります。その一方で、自分の意見や考え方を無意識に矮小化し、時に偏見・誤解を生み出します。このような偏見・誤解は、母国と異なる地で外国人として生活する人々の生活を困難なものにする可能性があります。

PNGでの日々は、日本とは全く異なる生活様式、文化、考え方等があることを私に教えてくれました。知らず知らずのうち「日本仕様」に凝り固まっていた私の価値観、考え方を揉み解し柔軟にしてくれました。

この学びは、「日本で生活する外国籍の方々も、何らかの生活上の困難に直面しているのではないか？」という新たな気づきを私にもたらしてくれました。日本には多くの外国籍の人々がいます。彼ら・彼女らの日本での生活をサポートすることは、日本でできる国際協力の1つです。PNGでの経験を踏まえ、このような活動に今後関わっていきたいと考えております。



- (診断)
- 結核性髄膜炎 58%
 - その他の部位での結核の発症 17%
 - 呼吸器での結核の発症 15%
 - その他 10%



参加したPNG医学会



PNG医学会での発表の様子 (2019)



パプアニューギニアの空

一言メモ：西ニューブリテン州はオイルパーム栽培が盛んで、そこで飼育されているキンペ牛は絶品のようです。